

人生ハンド仏句



信ずることごとく利益

住職 谷川寛俊

今年の夏は、正に異常気象ともいえる猛暑続きでさぞ皆様も大変な事だったでしょう。夏の高校野球も数々のドラマを生み出し、深紅の大優勝旗が初めて北海道に渡りました。

又、アテネオリンピックも近年にない日本勢の活躍で大いに盛り上がり成功裡に終了しました。毎晩遅くまでテレビ観戦で寝不足が続きました。平和の祭典とも言われるオリンピックにその国の代表として参加するだけでも大変なことなのに、その重圧、プレッシャーの中で実力を

遺憾なく發揮してメダルを取れるということは、計り知れない強い精神力を養い持っているのか、私には想像も出来ません。ある意味では、我々の体験した荒修行百日間の命がけの修行に以たものがあります。いずれにせよ各選手の皆様はそれぞれ戦いの前にあるジレンクスがあったり、お守りを手にしたり、目に見えないものへの助けを求める様であります。自分は、無信論者であると変に威張っていても私達には本質的に目に見えないもの、いわゆる神・仏への救済を願っているものではないです。

信ずる、信仰するということとは、仏様つまり、ずっと昔から未来に向かって私達を見守り、教えを説き続けていらつしやる釈尊に全てをおまかせして生きてゆく、そのお釈迦様のお説きになられた法華経、お題目に全てをおまかせする。という一言に尽きると思いますが。この世の中にあるものは全て、どんどん変わってゆきます。移り変わる世の中で、右往左往しない心を育て、目先の利害ばかりにとらわれずに充実した生活を送るためには信仰を持たなければなりません。

信じるということとは、自分こそはと言う意識を超越する事が必要となります。そのためには、私達の上に現れ出ようといつも念じておられる仏様を、一心にお題目を唱えることによって我が身に頂戴すればよいのです。つまり、全身心を持って行う帰依、礼拝、唱題の実践が、信ずる、信仰するということなのです。信ずる世界を得ようとする積み重ねが、自然に菩薩・仏の子としての自覚・行動を生み出し、ついに仏様によって信じさせられる自分を作り出して、ことに気付くのであります。ご利益というと誰もがすぐピンと来るのは病気が治る、お金が儲かる、出世して人より偉くなれる、というような事柄ではないでしょうか。勿論その様なことを願うのは普通のことであつて、別に悪いことでも特に欲が深いわけでもありません。お金持ちになりたい、病気が治って健康に楽しく暮らしたいと願うのは万人共通の心理であり、誰しも波風の少ない安穏な日々を願っています。しかし、はたしてお金を持ったら必ず幸福になれるものでしょうか。いくら持っても満足できないれば幸福になる日はありません。

健康になつたらそのまま幸福になれるとも言いきれません。金が金を追い、健康な体が限りなく欲望を追いかけていたら心の安らぐことはないのです。どんな人でも、いつか嫌でも災難に出会わずにはすみません。その様なときにも「苦しみは苦しみであり、楽は楽である」と正面から事実を受け止めてゆける力、この力を得ることこそ最大のご利益なのです。そのご利益は法華経を信じ、お題目に全てを任せるとき初めて授けられるのです。

編集・発行
玉蓮山真成寺
編集部
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjoyujitoyama108/>

第30号

H. 16. 9. 1
(毎月1日発行)

り偉くなれる、という様な事柄ではないでしょうか。勿論その様なことを願うのは普通のことであつて、別に悪いことでも特に欲が深いわけでもありません。お金持ちになりたい、病気が治って健康に楽しく暮らしたいと願うのは万人共通の心理であり、誰しも波風の少ない安穏な日々を願っています。しかし、はたしてお金を持ったら必ず幸福になれるものでしょうか。いくら持っても満足できないれば幸福になる日はありません。

人の悪口言う前に 自分の悪口言ってみる

お題目には、み仏が遠い昔、永遠に人々の幸福を願つた心が込められているのです。尚一層のご精進を願つてい